

④学内広報活動

「日本型食生活」啓発のためのポスター（3．広報活動（2）①）とチラシ（3．広報活動（2）①）を大学内で掲示・配布し、「日本型食生活」に対する学生の意識の向上を図った。

a. ポスターの設置



設置日：6月18日～9月24日

設置箇所：武庫川女子大学 学校教育館 6F

b. チラシの配布



配布日：6月～12月

配布対象：寝屋川市、神戸市、枚方市、東大阪市、羽曳野市他の教員研修会で配布

⑤学生の反応

学校現場で充実した食育に取り組むには、学生時代における濃厚な食育体験こそが欠かせないという問題意識で食育活動のモデル化に取り組んできた。「日本型食生活」の講座、ミシュランの二つ星シェフによる調理実習、農業体験や加工品づくりなど質の良い体験活動を通じて、実践的な教材研究を行うことができた。その体験活動の魅力が教育内容に届くような「日本型食生活」に関わる活動を発見することにつながった。

座学のみでの学生に比較し、「日本型食生活」に対する理解と行動変容が確認できた。以下は、本事業に関わった藤本ゼミの学生の振り返りである。

- 大学生になり、外食が増え、家で食べるときにしか日本食を食べていないことに気付いたことが、私が日本型食生活の取り組みに関わっての大きな収穫でした。だしの授業をするまでは、おいしかったら手間をかけなくていいのではという思いがありましたが、実際にだしのとり方を見て、飲んでみることでこんなにも「こく」がでるんだと驚きました。このときから、家や外食で口にするだしについて食事中に考えるようになりました。
- 野菜を育てる活動をすることで、いつもスーパー等で目にする野菜がこんなに手間をかけているものなのだと実感しました。野菜ができたときには、本当に嬉しくて、私はきゅうりを大事に持って帰り、大好きな漬け物にしたことをはっきりと覚えています。この活動で私たちが口にするまで、たくさんの人が大切に育ててきたのだと思い、より食を大切にするようになりました。
- この1年間で私の食への関心が大きく変わりました。身をもって体験することで、本気で考え、本気で取り組むことができました。将来教員になった時は、子どもたちにもこのように体験を通して心から体から学んで欲しいと思います。
- 授業を通して、子どもたちからどうして？なぜ？という疑問や気付きを引き出し、子どもたちが主体的に活用できるような知識や体験活動を取り入れた授業ができたらいいと思います。そこから、自分の家庭、地域、日本など広い目で食生活を振り返り、関心をもつことの楽しさを伝えたいです。

●成果物『日本型食生活を学ぶ食育プログラム集』の制作について

食育プログラム開発にあたっては、学生と討議を重ね、モデル授業に学生も同行し、実践の過程や結果を共有した。実施後には、プログラムの改良点を話し合ったり、不足点を補ったりする活動を学生とともに進めながら、プログラムの改善を行ってきた。教員志望の学生が食育の授業のプログラムを作り、元小学校教員が授業を行い、子どもたちの反応をもとに改善する。こうした一連の経験も教員養成での力量形成に大いに役立った。この一連のプロセスを通じて学生が教師の立場で授業作りに関わることで学校現場での実践ノウハウを蓄積することができるとともに、食に丁寧に向き合う態度も育んできた。

作成した「日本型食生活を学ぶ食育プログラム集」には、33の食育プログラムを収録した。いずれのプログラムも子どもの活動を通して、子どもの思いや経験を引き出すことに工夫したものとになっている。食育の方法においても、子どもたちの知っていることを子どもたちから引き出しながら子ども同士の学びをつなげる、アクティブ・ラーニングともなっているといえる。

以下に食育プログラム集の33プログラムの目次を挙げる。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. お米と大豆は名コンビ | 2. お米のことばのひみつを考えよう |
| 3. お米を食べ比べてみよう | 4. ご飯といえば、パンといえば |
| 5. 世界の寿司 | 6. お箸のよさを見つけよう |
| 7. だしそむりえになろう | 8. 硬水と軟水でだしを比べてみよう |
| 9. 「katsuo-dashi」になろう | 10. うま味って何味・・・？ |